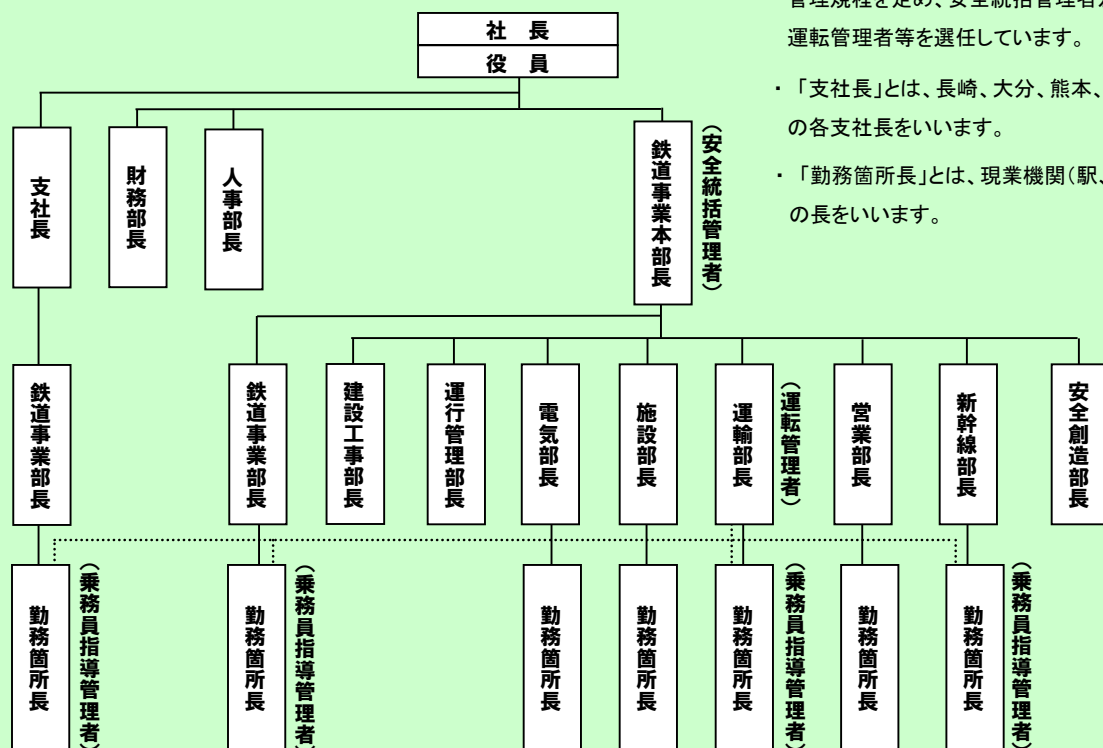


3-1 安全管理体制

経営トップの主体的関与の下に安全管理体制を確立し、輸送の安全の維持及び向上を図ることを目的として安全管理規程を制定しています。これに基づき、社員の声を反映した業務運営、安全総点検の実施等により安全管理の強化に努めています。2019年度も引き続き安全マネジメントのPDCAサイクルを適切に機能させ、安全監査及び安全点検等の実施により社内の安全マネジメント体制のチェックを行い、輸送の安全の確保に取り組みました。

輸送の安全の確保に係る体制

◆安全管理体制図



- ・ 鉄道事業法第十八条の三に基づき安全管理規程を定め、安全統括管理者及び運転管理者等を選任しています。
- ・ 「支社長」とは、長崎、大分、熊本、鹿児島の各支社長をいいます。
- ・ 「勤務箇所長」とは、現業機関（駅、区所等）の長をいいます。

安全管理体制に係る関係者の責務

社 長	・ 輸送の安全の確保に関する重要な事項を決定する。 ・ 安全統括管理者がその職務を行う上での意見を尊重するとともに、必要により措置を講じる。
安全統括管理者 (鉄道事業本部長)	・ 輸送の安全を確保するための運転取扱い、車両、鉄道施設の各部門を統括する。 ・ 安全意識の向上、関係法令等の遵守の徹底及び安全基本方針等の確実な実施を図る。
運転管理者 (運輸部長)	・ 輸送の安全を優先する運行計画の作成及び改正、乗務員及び車両の運用、乗務員の育成及び資質の維持等を行う。 ・ 運転に関する業務について、関係部長等から必要な報告を求め、指示を行う。
乗務員指導管理者	・ 所属する乗務員の資質の維持、管理に努め、運転管理者へ報告する。

3-2 安全性向上の取り組み

安全の確保のためには、社員一人ひとりが高い安全意識を持ち、安全について自由に意見を交換しあえる風通しのよい組織であることが大切です。そのために「安全創造運動」を2006年度から継続して展開し、安全風土の形成に努めています。

● 安全創造運動2019の展開

2019年度は、『もう一度、それ大丈夫?! ～安全に敏感になろう～』をスローガンに掲げ、「安全創造運動2019」を展開しました。

◆安全創造運動各種ツール



[パンフレット]

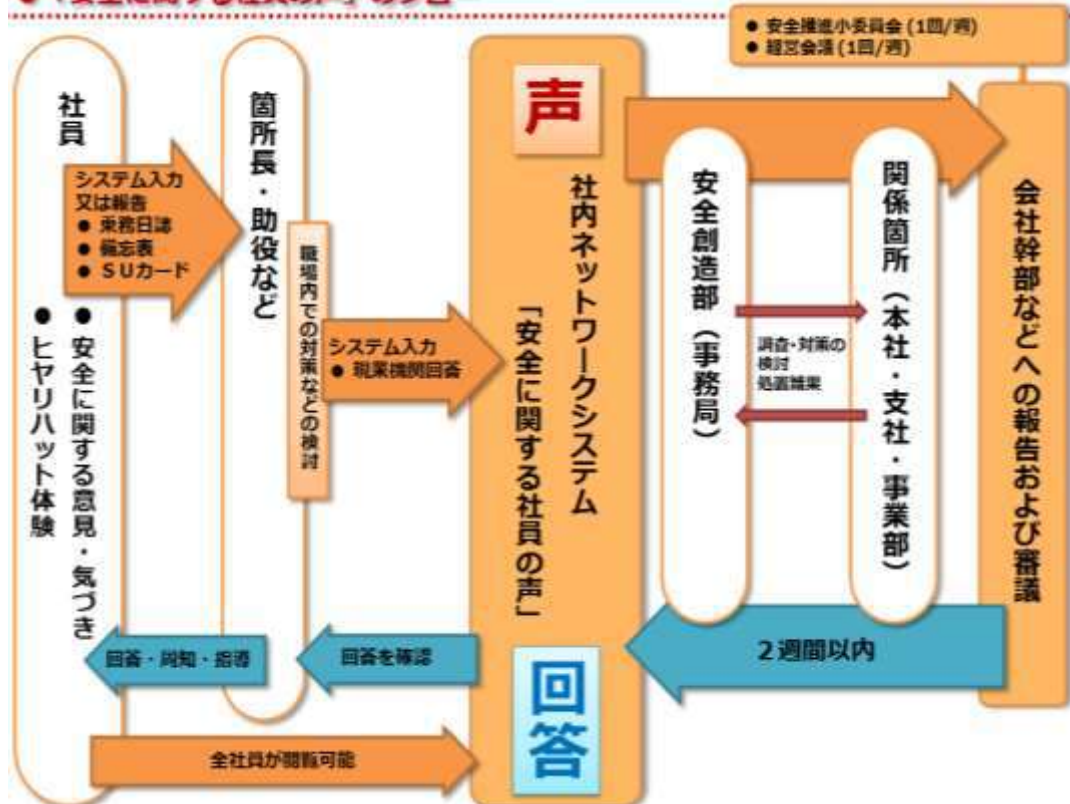
[ポスター]

[ステッカー]

■「安全に関する社員の声」

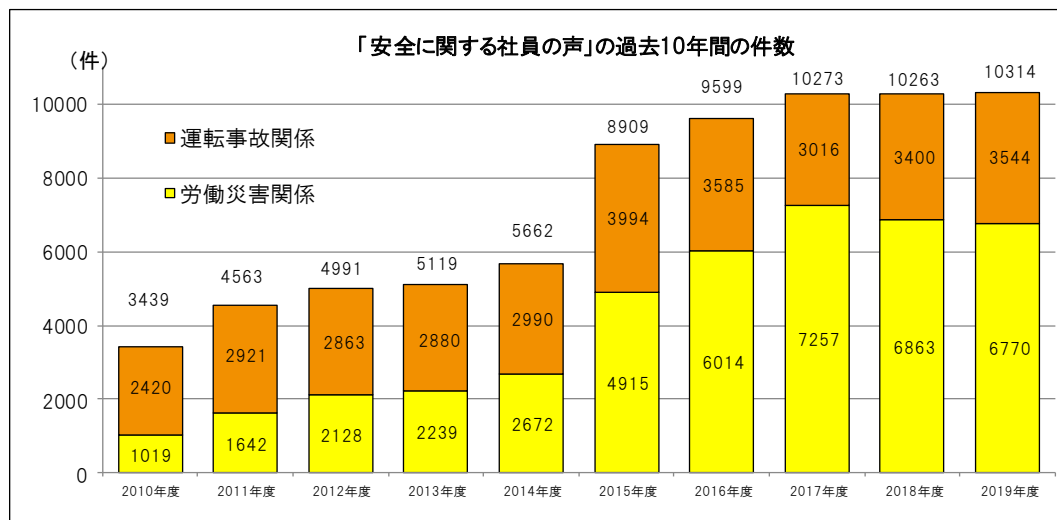
「安全に関する社員の声」は、社員の安全に関する「意見や気づき」及び「ヒヤリハット体験」を共有し、事故や危険の芽を未然に防止するためのシステムです。内容と対策を2週間以内に経営会議で報告し、その情報は社内ネットワークにより全社員に開示しています。

●「安全に関する社員の声」のフロー



■「安全に関する社員の声」の件数

2019年度に寄せられた意見・気づきやヒヤリハット体験は、10,314件でした。これらのうち、意見や気づきが2,317件、ヒヤリハット体験は7,997件でした。



■「安全に関する社員の声」に対する表彰実績

「安全に関する社員の声」をより一層促進する目的で、毎年各種表彰を実施しています。

◆ 安全創造大賞

年間を通じて、多くの声に対し迅速に改善を図り、鋭い気づきや優れた意見の声を積極的に出し、安全創造運動の推進に貢献した職場や安全をつくるために顕著な功績をおさめた社員に対する表彰です。2019年度は、個人の部で2名、職場の部は3職場を表彰しました。



◆ 安全創造賞

安全に関する高い問題意識がうかがわれ、安全に関して優れた意見等であると認められた声に対する表彰です。2019年度は1名を表彰しました。



◆ ヒヤリハット推進賞

事故等の未然防止や安定した輸送の確保に大きく貢献した「意見・気づき」の声に対する表彰です。2019年度は、73名を表彰しました。



◆ ヒヤリハットオープン賞

自らのヒヤリハット体験を積極的に声に出すことで、事故等の未然防止や安定した輸送の安全確保、労働災害の防止に大きく貢献した声に対する表彰です。2019年度は、10名を表彰しました。



◆ 想定ヒヤリ賞

想定ヒヤリの声で、安全性の向上や安定した輸送の確保に大きく貢献した声に対する表彰です。2019年度に新たに制定し、15名を表彰しました。

※想定ヒヤリとは・・・ヒヤリハットや事故が起こる前に、危険性を感じ、そこから起こりうる重大事故を想像することで、必要な対策を考えること。



■「安全に関する社員の声」による改善事例

２０１９年度に寄せられた１０，３１４件の意見・気づきやヒヤリハット体験のうち、対策が必要な声は５９４件あり、これらについて対策の実施又は対策実施の方針を決定しました。対策が実施された「安全に関する社員の声」のうち、一例を紹介します。

事例

● 声の内容

日豊本線の宗太郎、久大本線の湯平、鬼瀬のホームには列車との間に隙間や段差がある箇所があります。お客さまが乗降される際に足を怪我したり隙間から落ちたりする可能性があるため大変危険だと思います。対応をよろしくお願いします。

● 対策

駅ホームの段差及び隙間は基準値内であることを確認した上で、お客さまが降車の際に隙間等が目につくようにオレンジ色の塗料を塗り、視認性を高めました。

改善前



改善後



事例

● 声の内容

九州新幹線 筑後船小屋駅において、発車の際にホーム可動柵を閉じる操作を行ったところ、可動柵内（線路側）に設置してある可動柵操作盤のかげからお客さまが可動柵の外（ホーム側）へと出て行ったことを認めました。ITV及び目視では死角になっていたため、ヒヤリとしました。

● 対策

ホームに設置してある可動柵操作盤などの影やホーム終端部にお客さまが滞留しないようにバリアカーを設置しました。

改善前



改善後



■安全創造運動の記録

展開された安全への取り組みは「安全創造運動の記録」として毎年まとめています。「安全創造運動の記録」は、社内のネットワーク上に掲載しており、全社員が閲覧することができます。

■安全サミット

2019年10月23日、第8回「安全サミットin博多」を開催し、鉄道、航空、製造業など計40社にご参加いただきました。代表して4社さまに多様性が進む中での職場・制度づくりと安全の取り組みについてご紹介していただき、その後の意見交換でも様々な意見が交わされ、各社における安全に関する課題や工夫など情報共有を図る有意義な機会となりました。



■安全創造取組発表会全社大会

2019年10月24日、「安全創造取組発表会全社大会」を開催しました。「安全」は鉄道に限ったことではなく、全ての事業における最大の使命であるとの思いから、鉄道事業以外の部門も参加し本社直轄及び各支社大会から選ばれたJR九州9職場とグループ会社2職場が、各職場で行っている安全をつくるための取り組みについて発表を行いました。

最優秀賞

鹿児島工務センター&本所(保線)
「踏切道封鎖への道～地域の安全と未来のために～」

踏切警報機やしゃ断機が設置されていない4種踏切を廃止するため、自治体や地域のみなさまと一体となって、3箇所の踏切を封鎖することで踏切事故防止に繋がり、地域のみなさまの安全性が向上した取り組みを発表しました。



会場審査特別賞

運行管理部
「事象発生時の早期復旧に向けた取組み」

異常時における情報収集、共有、提供に着目し、電子ホワイトボード等の情報をリアルタイムに提供するシステムを構築した取り組みを発表しました。



特別賞

サービス部サービス課
「目指せ！普及員～安全のプロ～」

車内で怪我をされたお客さまへの対応力向上のため「応急手当普及員」の資格を取得するなど、サービスだけではなく「安全のプロ」も目指した取り組みを発表しました。



■安全創造講演会

2019年6月24日、早稲田大学 理工学術院教授 小松原 明哲様をお招きし、「ヒューマンエラーを防ぐー現場力強化の方法ー」と題して、「ヒューマンエラーはなぜ起こるか？」という点を導入とし、ヒューマンエラーには2つのタイプが存在することや、それぞれのタイプを防止するためのアプローチ方法についてご講演いただきました。

現場とのコミュニケーション

現場と本社の各部門との間でのコミュニケーションを強化し、安全に関する課題や情報の共有化を図るため、意見交換会等の様々な取り組みを行っています。

■ 社長との意見交換会

毎年、社長と現場との意見交換会を開催しています。各職場における安全に関する日頃の取り組みや、それらを推進する上での問題点などが直接社長に伝えられ、現場の実情や課題等について共有化を図っています。



■ 縦☆横ミーティング

鉄道事業本部長（安全統括管理者）と現場とで日頃から鉄道の安全について思っていることを気軽に話し合い、聞きあう意見交換会です。コミュニケーションを活発に行い、風通しの良い職場を作るため、「気楽にまじめな話をする」をモットーに開催しています。



■ SU(セーフティ・アップ)ミーティング

安全推進プロジェクト及び技術指導プロジェクトによる現場巡回の結果報告や事故防止の取り組みをはじめとした、安全に関する取り組みの情報共有を図るため、社長や鉄道事業本部長（安全統括管理者）及び各主管部長、現場長等が出席して意見交換を行っています。



■ 安全推進プロジェクト・技術指導プロジェクトの現場巡回等

本社の各システムの部署では、安全推進プロジェクト又は技術指導プロジェクトを配置して、各プロジェクト社員による現場巡回や勉強会、意見交換会等により、本社の安全に対する方針を共有しています。



〔技術指導プロジェクトを交えた勉強会〕



〔安全推進プロジェクトとの意見交換会〕



〔安全推進プロジェクトとの意見交換会〕

● 安全推進委員会の開催

■ 安全推進委員会

本社では、鉄道運転事故や輸送障害及び労働災害等の未然防止や再発防止に関する対策の審議や、安全に関する情報の共有を目的として「全社安全推進委員会」が毎月開催されています。ここで決議された対策や情報等については、各支社や各部門毎で開催される安全推進委員会等において展開されます。また、これらの委員会には、ＪＲ九州グループ会社の安全担当者も出席しており、決議された対策や安全に関する情報はグループ会社内でも展開され、ＪＲ九州グループ一体となって安全の確保に取り組んでいます。



〔 全社安全推進委員会 〕



〔 支社安全推進委員会 〕

● JR九州グループ一体となった取り組み

■ 安全懇話会

ＪＲ九州グループ（鉄道関係６社）の安全担当の責任者とともに、社員による取扱い誤りや労働災害について、その発生状況や安全対策等の情報共有を図るなどして、ＪＲ九州グループ一体となった取り組みを展開しています。また、他社を訪問させていただき、施設見学や意見交換等を行っています。



〔 安全懇話会 〕

■ 安全大会

ＪＲ九州グループ会社及び協力会社各社と一層の連携を図り、鉄道における輸送の安全の確保と安定輸送、インシデントや四大労働災害などの危険な事象・事故等の撲滅に一丸となって取り組むため、毎年「安全大会」を開催しています。２０１９年度は５月２１日に開催し、総勢８７社から各社を代表して１９０名のみなさまにご出席いただきました。



〔JR九州電気システム(株)様による安全宣言〕



〔特別講演〕

北淡震災記念公園震災の語りべ
池本 啓二 様
「阪神・淡路大震災～まーくんが伝えたいこと～」



〔特別講演〕

組織活性コンサルタント
前川 由希子 様
「安全・安心に不可欠なコミュニケーション術
～ミスを未然に防ぐ心の「笑顔」を手に入れよう～」